



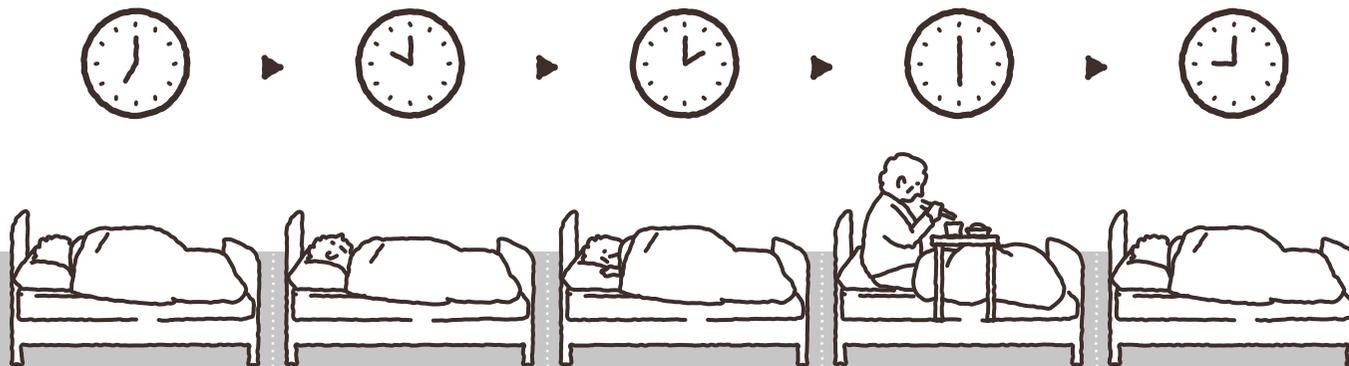
廃用症候群予防に
取り組む当院では、
1日8時間の離床を実践。
患者さんが楽しいと思えることを
考えながら、目的のある離床を
促しています。

博愛記念病院 月刊広報誌

2024.10
FREE PAPER

廃用症候群予防を徹底します

BAD



GOOD



廃用症候群予防は、日本ではあまり注目されていませんが、私たちは病院で必ず取り組むべきこととして考え続けてきました。廃用症候群予防のカギとなるのは、できるだけ早い段階からベッドを離れる「離床」です。すでにHMWの病院の多くが8～10時間の離床時間を実現しているように、できる限り長時間の離床を促して廃用症候群を防ぐことが、私たちの常識になっています。

一方、医療界にはいまだ「入院したら安静が基本」という古い常識が根強く残っています。しかし実は、安静が必要な病態というのは少なく、多くの病態では安静を避け、離床すべきとされています。特に高齢者の場合は廃用症候群の進行が早く、安静を続けると寝たきり状態に陥る

ことも少なくありません。

在宅復帰を目指す病院で、廃用症候群予防を行わずにリハビリテーションをするのは本末転倒です。廃用症候群による心身機能の低下を防ぎながら、機能向上のためのリハビリテーションを行うという、よく考えれば当たり前と思えることをしっかりと行う必要があります。

単に離床時間を長くするだけでは、患者さんが時間を持て余してしまうかもしれません。そのため、各病棟に配置された離床コーディネーターを中心に「ただ起きているだけではない」目的のある離床を促し、離床時間が楽しく、意義深いものになるよう努力する。ここにもHMWの姿勢が表れています。

Staff Comment



離床コーディネーター
宮城 衛

離床に関する取り組みを、他職種も含めてコーディネートするのが離床コーディネーター。治療・栄養管理・リハビリテーションなどの面からさまざまなアプローチをしています。離床コーディネーターに対するグループ独自の研修制度もあり、患者さんの入院生活において有意義な離床が提供できるよう日々研鑽しています。今後も多職種で協力し、廃用症候群の予防、目的のある離床を行っていきます！



離床について定期的に会議を行います。



HAKUAI PHOTO SNAP



1 体育館では多くの患者さんと阿波踊りを楽しみました。



2 敷地内施設にもおもむき、入所者さんとも楽しみました。



3 高張提灯を先頭にいざ演舞場内へ。



4 艶やかな衣装に身を包んだ流麗な女踊りが魅力です。



5 「徳島の夏」といえば、やっぱりこれでしょ。

information:

シャワー入浴装置PAOを導入しました!

療養中の清潔保持は感染予防や疾病の回復において大変重要です。PAOは平均250 μ mのミストで全身をくまなく洗い、温めることができます。水圧による体への負担も少なく、リラックスして入浴できます。



入院の受け入れやそのほか、なんでもご相談ください!

医療法人 平成博愛会
博愛記念病院
HAKUAI MEMORIAL HOSPITAL

☎ 088-669-2166

〒770-8023 徳島県徳島市勝占町惣田9
☎ 088-669-3362 ✉ info@hakuaihp.jp

当院について
詳しくはこちら! /



博愛記念病院